

令和3年度タンチョウ傷病個体收容結果

表2 平成12～令和3年度タンチョウ傷病個体收容結果（令和4年3月31日時点）

年度	(件)														(羽)		收容個体数
	交通事故	列車事故	電線衝突	不明衝突	スラリー等	フェンス	他事故	栄養不良・衰弱	疾病	中毒	同種闘争	捕食・襲撃	その他	不明	死体	生体	
平成12	8	2	5	1				4			1			1	14	5	19
13	3	1	4	3			2	1		1			2	6	15	7	22
14	4	4	14	3		1		2		2	3	1	2	1	22	12	34
15	2	3	10	3	1	4	1			1				3	18	10	28
16	2		12		1	1			1			1	1		8	10	18
17	3	3	11	3	2	2		1			2	1		4	16	12	28
18	3	4	6	3	2	1	1	1			1	1	1		12	9	21
19	5	2	10	1	1	2	3	2	1	2	1	2		6	24	11	35
20	6	4	12			3	3	1			1		2	2	18	13	31
21	4	2	6	3	3	1	1	2			4	2	1	2	15	13	28
22	2	6	5	2	2	2		5	1			1		5	17	8	25
23	6	2	5	3		1	1	1			1	1		1	11	10	21
24	4	7	5	1	3	1		2	1		1	1			14	11	25
25	5	2	6	5	1	1	3	3	6		2	1	1	2	19	11	30
26	10	2	6		1	2	2	2	1		2				12	12	24
27	5	7	9	4	2	1		3			2		3	2	18	16	34
28	8	2	3	4	2	1					2		3	7	22	10	32
29	13	1	11	3	1	1	1	3		2	1	1	1	2	26	11	37
30	7	6	3	6			6	4	1			1	2	3	23	10	33
令和元	16	2	11	6	9	1		3	1			2	1	6	38	15	53
2	13	1	3	4	3	2		1					1	1	22	9	31
3	15	5	3	3	1	4	3	3				2	3	8	43	4	47
計	144	68	160	61	35	38	25	44	14	8	24	18	24	62	427	229	656

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があるため。

平成12年度：栄養不良と不明衝突が1羽、同種闘争と栄養不良が1羽、電線衝突と栄養不良が1羽

平成13年度：不明衝突とその他が1羽

平成14年度：他事故と栄養不良が2羽、電線衝突と交通事故が1羽

平成16年度：電線衝突と疾病が1羽

平成17年度：不明衝突と疾病、フェンス等と栄養不良、他事故とスラリー、電線衝突と交通事故、不明衝突と同種闘争、電線衝突と捕食襲撃それぞれ1羽ずつ計6羽

平成18年度：電線衝突と栄養不良が1羽、不明衝突と捕食襲撃が1羽、他事故とフェンス等が1羽

平成19年度：不明と捕食襲撃が1羽、他事故と捕食襲撃が1羽、不明衝突と栄養不良が1羽

平成20年度：他事故と栄養不良が1羽、電線衝突と他事故が1羽、電線衝突と交通事故が1羽

平成21年度：スラリーと捕食襲撃が1羽、他事故と栄養不良が1羽、電線衝突と同種闘争が1羽

平成22年度：フェンス等と栄養不良、不明衝突と栄養不良、交通事故と栄養不良、栄養不良と列車事故、電線衝突と栄養不良、不明衝突と疾病それぞれ1羽ずつ計6羽

平成23年度：フェンス等と栄養不良が1羽

平成24年度：フェンス等と疾病が1羽

平成25年度：電線衝突と同種闘争が1羽、栄養不良と疾病が2羽、他事故と疾病が1羽、電線衝突と疾病が2羽、不明衝突とその他が1羽、不明衝突と栄養不良が1羽、計8羽

平成26年度：電線衝突と栄養不良が1羽、同種闘争と電線衝突が2羽、他事故と栄養不良が1羽

平成27年度：電線衝突と栄養不良が2羽、交通事故と同種闘争が1羽、同種闘争と電線衝突が1羽

平成29年度：交通事故と中毒が2羽、不明衝突と栄養不良・衰弱が1羽、同種闘争と電線衝突が1羽

平成30年度：不明衝突と栄養不良が1羽、フェンス等と栄養不良が1羽、電線衝突と捕食・襲撃が1羽、その他と栄養不良が1羽、フェンス等とその他が1羽、列車事故と疾病が1羽

令和元年度：交通事故と電線衝突が1羽、電線衝突と不明衝突が1羽、不明衝突と栄養不良・衰弱が3羽

令和2年度：不明衝突と栄養不良・衰弱が1羽

令和3年度：不明衝突と栄養不良・衰弱が1羽、交通事故と栄養不良・衰弱が1羽、他事故と栄養不良・衰弱が1羽

※3 「他事故」としては、ゴム栓などが嘴にはまってしまう事故や側溝などへの転落事故がある。

※4 「フェンス等」としては、有刺鉄線、電気柵、シカ除けネット、シカ除け柵などの絡まりがある。

※5 「スラリー等」とは、酪農業で設置している牛のふん尿貯めのタンクにタンチョウが誤って落ちてしまったものである。

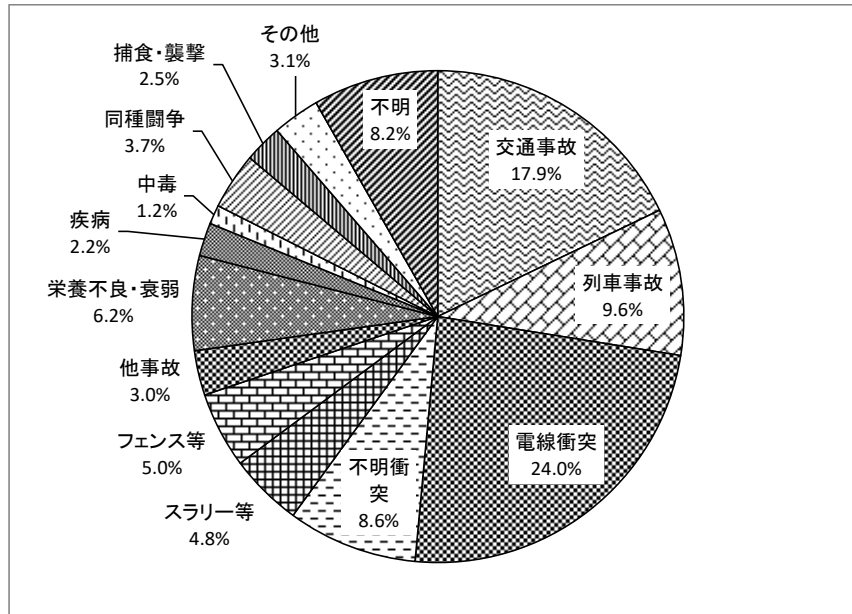


図3 タンチョウ收容原因別割合 (H12-R3 年度)

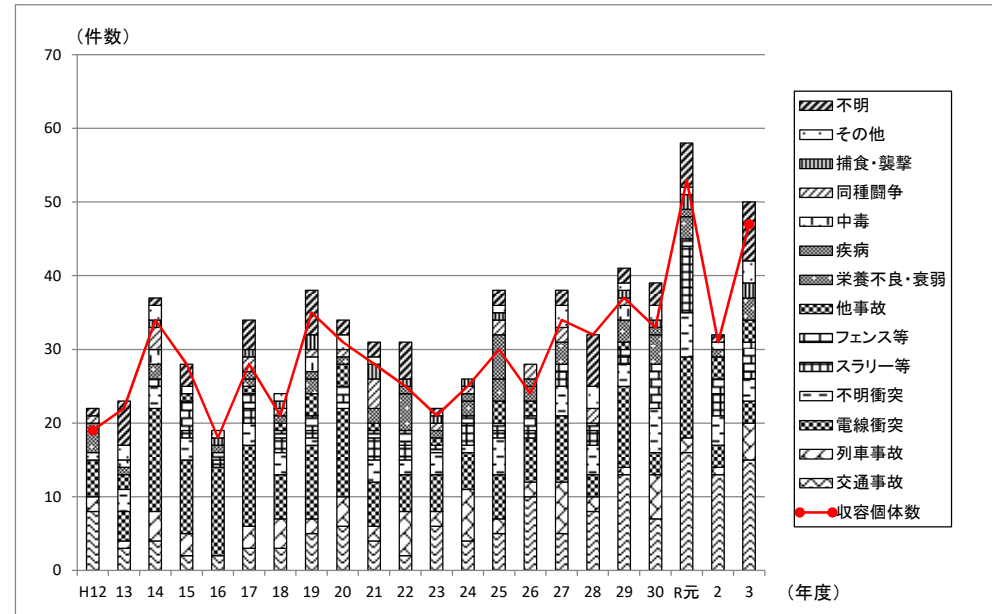


図4 タンチョウ年度別收容件数 (H12-R3 年度)

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体があるため。